

小泊地域の海岸・ 漁港などの環境美化活動

小泊海岸を守る会が4月19日(金)に小泊海岸や冬季閉鎖が解除された竜泊ラインなどの清掃ボランティアを行いました。同会に参加したのは、齋勝建設(株)、宝森建設興業(株)、島村産業(株)、(株)竹内組、(株)青南商事、(株)環境工学の6社で、約180人が参加しました。

5月9日(木)には下前漁協婦人部による下前漁港内の清掃活動、23日(木)には花壇の花植えが行われました。他にも、6月2日(日)には小泊婦人会による花壇の花植えが行われました。

5月30日(木)には、清港会による小泊漁港内の清掃活動が行われ、6月から始まるメバルの刺し網漁に向けての準備を行いました。

また、町では毎年7月から、折腰内海岸など6海岸を対象に清掃活動を行っています。



大きなおいもがとれますように 中里こども園がサツマイモ植え体験



中里こども園の園児たちが町の若手農業者を中心に構成される「ばろかだる会」の大川さんに教えてもらいながらサツマイモ植え体験を行いました。

今年は19名の園児たちが、「あまはづき」「パープルスイートロード」「べにはるか」「安納いも」という4つの品種のサツマイモを植えました。

園児たちは「大きくなあれ!」と願いを込めながら一生懸命サツマイモの苗を植えていました。

元気に育ってね!

6月10日(月)に滝ノ沢ふるさと砂防愛ランドにて、深谷沢砂防ダム魚道ヤマメ放流会が開催されました。

初めに、県職員から砂防ダムの役割などを学習した後、中里小3年生30名がバケツに入った稚魚約5,000匹を一斉に放流しました。児童たちは「元気に育ってね!」と声掛けをしながら放流し、ヤマメの稚魚が大きく育つのを楽しみにしていました。



この事業は、「子供達と共に夢を創る会」(代表：白川勝則)が主催となり、県土整備部河川砂防課と西北地域県民局地域整備部河川砂防施設課、町の協力のもと開催されています。

トーマスの線路を歩こう！

薄市小学校放課後こども教室が開催される

6月12日(水)、薄市小学校の放課後子ども教室の一貫として、今泉地区に存在する津軽森林鉄道の線路跡地を歩くイベント「トーマスの線路を歩こう」が開催されました。昨年度から県営事業でほ場整備事業が実施されており、今年度には線路の跡地も変わってしまう予定となっています。115年前に日本で初めての森林鉄道が蟹田から今泉へ開通しました。

後世へこの記憶を残すために実施されたこのイベントでは、薄市小学校18名の児童が参加し、森林軌道を歩く「渡り納め」を体験。また地元住民のお話や昔の写真、動画の鑑賞も行いました。100年以上前の中泊町は林業が盛んだったことを子供たちに記憶していただき、大地の恵みを感じてもらったイベントとなりました。



有事の際、迅速に対応できるよう

海難救助訓練が実施される



迅速かつ確かな出動体制および捜索救助活動への対処方法の体得並びに関係機関などとの連携を強化し、事故即応体制の向上を図ることを目的とした海難救助訓練が6月14日(金)に小泊漁港にて行われました。この訓練は小泊漁港に向け航走中のメバル一本釣漁船と同港より出漁したメバル刺網漁船が同港より2マイル地点の海上において衝突事故が起きたという想定で行われました。

五所川原地区消防事務組合消防長は「この訓練を継続し、有事の際にスムーズな連携と対応ができるようになってほしい」と話しました。

炎天下の中

なにもささパレードが開催される

地域文化の理解を目的としているなにもささパレードが6月15日(土)に開催されました。

中里小学校の全校児童が郷土の伝統芸能である「なにもささ踊り」を踊りながらわんぱく広場から津軽中里駅までを約1時間練り歩きました。沿道では地域の方々に応援しており、中には一緒に踊り出す人も見られました。



防除作業の安全を祈願

航空防除安全祈願祭を行う

航空防除作業を行っている(有)中里エアーサービスと中里航空防除組合が、6月22日(土)に防除用ヘリコプターによる作業前安全祈願祭を行いました。

作業に使用するヘリコプターを前にして順番に玉串を捧げ、真剣な面持ちで今期作業の安全を祈りました。

航空防除作業は7月下旬から9月上旬まで、町内外の水田や大豆畑で行われるとのこと。



ゾロ目達成!

中泊メバル膳が11万1,111食達成



高級魚メバルの水揚げ量県ナンバーワンを誇る当町の新・ご当地グルメ「中泊メバルの刺身と煮つけ膳」が提供から約9年を経て、6月24日(月)に累計販売食数11万1,111食を達成しました。

丸山さんは「食べに来るのは2回目。びっくりしたがいい思い出になった」と喜びの声をあげていました。

町長は「宮越家を見にきてお昼はメバル膳という流れが定着してきた。たくさんの方に食べていただいてリピーターになってほしい」と期待の言葉を述べました。

漁業の大変さを学ぶ

こども保育園でおさかな教室

自分の住んでいる地域に興味を持ち、青森の名産品を知ることが目的に、6月26日(水)にこども保育園でおさかな教室が開かれ、園児たちがホタテの殻むき体験や漁師が実際に使っている道具の体験、また、漁業の流れを紙芝居で学びました。

講師は、本州最北端の海女として活動する小泊の鈴木舞子さんら『あおりウォーズ』のメンバーが行いました。

園児たちは「みんなと協力してむいて楽しかった。殻から身をはがすのが難しかった」と話しました。

園児たちがむいたホタテはその日の給食のカレーに使われました。

